

2023 年度 大阪河崎リハビリテーション大学における 新たな国際交流戦略の展開について － Chiang Mai University および Mahidol University との国際交流 －

*Development of a New International Exchange Strategy for Osaka Kawasaki Rehabilitation University
in FY2023 : International Exchange with Chiang Mai University and Mahidol University*

国際交流委員会 大嶋 伸雄（作業療法学専攻）

1. はじめに

大阪河崎リハビリテーション大学（以下、本学）では、2023 年度より海外大学との本格的な国際交流を目指して国際交流委員会を立ち上げた。一般的に国際交流事業は大学の教育と研究の質を底上げし、学生と教員の視野を広げるための又とない機会を提供してくれる。しかしながら、国際交流事業に使える時間と予算には限りがあるため、各大学では様々な状況を考慮した個別の戦略が求められている。さらに、こうした事業では先方大学の事情や状況、提携のタイミングなどにより、スムーズに事業が運ぶ場合とそうでない場合もあり得ることから、大学としての確固たる前向きな意思がなによりも重要となっている。

本稿では、まだ緒についたばかりの本学における国際交流事業の概要と、2024 年の初頭に国際交流提携を結び、今後、本格的に共同事業を行う予定であるタイのチェンマイ大学（Chiang Mai University、以下 CMU）、同じくタイの、マヒドン大学（Mahidol University、以下 MU）との提携交渉の推移、および将来構想などについてご紹介する。

2. 本学における国際交流戦略の骨子について

(1) 学生間における国際交流の基盤となる教育科目について

本邦におけるリハビリテーション（以下、リハ）専門職は、現在、様々な局面から時代の転換期と向き合っている。高齢者の急増に合わせて拡充された病院・施設などの臨床におけるセラピスト定員数の飽和状態が指摘される一方で、逆に一般社会で高まるリハ・ニーズに対応するため、学部教育においては社会全般で働くことができるリハ専門職の育成が急務になっている。さらに介護・医療の世界における国際化の流れは時代と共に進む一方である。ベトナムなどのアジアから介護職としてわが国にやって来る外国人スタッフの増加や、まだ数は少ないながら海外で勤務する日本人の医療専門職者も徐々に増えつつある。

こうした状況を踏まえ、リハ専門職の養成教育を従来の専門職教育の概念だけで行う事はすでに時代遅れになりつつある。そうした従来の専門職（Speciality）教育とは別に必要とされている教育が、一般性（Generality）教育である。Generality とは物事への対処、課題解決や遂行能力を涵養し、チームや組織をマネジメントできる能力を養う教育で、欧米ではより実践的な専門職の育成を行う大学教育では必須の教育概念であるとされている。さらに、医療系専門職においていくつか存在する Generality 教育の代表とされているのが多職種連携教育（IPE : Interprofessional Education）である。IPE はチーム医療教育として表示される場合もあるが、実質的にはマネジメント教育である。臨床実践を基盤とする IPE は今後、本学の学生教育における重要な柱として徐々に存在感を増している。2023 年 9 月に試験的に本学の IPE として導入された「保健医療福祉系学生交流セミナー」は慶應義塾大学薬学部が主催し、本学をはじめ複数大

学との共催でオンラインにて実施された。本学からは15名の学部生が参加し、終始活発な議論が交わされた。このときの分析から、本学の学部生たちが自信を持って他学の学生達と議論が交わせる資質を十分備えており、教育環境次第ではさらなる向上が期待できる事を窺わせた。

こうしたIPEの教育的普及に向けた活動が現在、本学で進行中であり、今回新たに始まるタイの大学との国際交流ではこのIPEを中心に据えた教育交流が望ましいと考えられた。同じ専門職、同じ専門性であっても国が異なることで役割やニーズの違いがあることを理解し、社会制度の違い、文化の違いなどを認識しつつ、一緒にお互いの違いや共通点を発見する作業を通じて一般性を涵養させる方向で準備中である。

(2) 研究について

今回、CMUとの国際交流は主に教員間の共同研究から始まる予定である。さらに、複数の研究者を含めた組織同士によるプロジェクト研究も徐々に開始される可能性もあるが、それは現時点において時期尚早であることから、まずは教員個人間における国際共同研究から開始される予定である。

以下、一般論であるが国際共同研究によるいくつかのメリットを紹介する。

① 異なる研究環境へのアクセス

国際交流を通じて、教員は異なる研究環境に触れることができる。これにより、新たなアイデアや多様な研究方法を学び、専門分野における最新の情報に追いつくこともできる。

② 国際的な共同研究の機会

異なる大学との交流は、共同研究の機会を提供する。国際的な研究協力は、より広範で深い研究を可能にし、異なる文化や視点からの知識を取り入れることができる。

③ 学際的なアプローチの促進

異なる国の大学との交流は異なる専門分野からの知識を統合し、学際的なアプローチを促進する。これにより医学および医療の進歩に寄与する独自のアイデアや解決策が生まれる可能性がある。

④ 国際的な研究者ネットワークの構築

大学間の国際交流は国際的なネットワークの構築を助長する。これにより、教員は世界中の専門家と連携し、異なる文化や研究環境での経験を得る機会を広げることが可能となる。

⑤ 研究資金の拡充

国際的な交流は、異なる国や機関からの研究資金獲得の可能性を拡げる。日本学術振興会の科学研究費でも海外大学との共同研究や国際的なプロジェクトを推奨しており、様々な形式での申請が可能である。さらに民間組織が主催する様々な研究費交付事業において、国際共同研究は資金調達の新たな手段となり得る。

⑥ 総じて、国際交流は教員の専門的な成長と研究への新たなアイデアを提供する。異なる文化や専門領域間のアプローチを組み合わせることで、革新的で意義深い成果が生まれる可能性がある。

以上の観点から、本学では国際共同研究を強力に推し進めたいと考えている。当初は、本学からCMUへ共同研究を提案する事から開始する予定であるが、1件でも2件でも教員相互の理解と納得が得られて、それが先行例として成功することを大学サイドとしても強力に支援する予定である。

(3) 国際人材の育成について

本学が海外の大学との国際交流を行うことで、国際人材の育成という新たな教育機会を得ることができる。その具体的な内容について以下に記載した。

① 異なる社会、文化、医療・保健・福祉などへの理解

国際交流を通じて、学生は異なる国の社会制度・体制、文化、医療・保健・福祉のあり方を学ぶことで、国際的な視野を広げることができる。これは将来の医療専門職を目指す本学の学生にとって非常に有益であり、異なる文化や背景を持った患者へ対応する能力を高めることができる。

② 言語スキルの向上

国際交流は、異なる言語環境でコミュニケーションを行う機会を提供する。学生間での異文化交流はもちろん、直接、言語による交流が例え不得手であってもボディランゲージなどノンバーバルな手段を用いて自分の意思を相手方に伝える体験も教育上、非常に有用である。とくに医療現場では患者との円滑なコミュニケーションが不可欠であり、異なる言語でのコミュニケーション経験は、学生の言語スキルを向上させ、将来的な患者とのコミュニケーション

ンに役立てることができる。

CMU では、ほとんどの学生がネイティブ並に英会話を行えることから、本学の学生が生の英会話の学修機会を得ることで、さらなる会話力の向上が期待できる。学生間の交流機会は訪問時だけでなく、SNS やオンラインによる会話などを通じて継続的に繋がる可能性もある。

③ 専門性の違い

異なる国では医療が置かれた環境、そこに住まう患者が医療に期待する内容もレベルも異なる。国際交流事業に参加する学生においては、そうした専門性に根ざした異文化理解と感受性の向上が期待できる。一方で、外の世界から見た自国における自己の専門性は、それまでの大学内の教育で得たイメージとは異なる。他の国と比較する事で明らかとなる見方、つまりより客観的な視点を育むことに繋がる。

3. Chiang Mai University との国際交流事業

1) Chiang Mai University の概要

Chiang Mai University (以下、CMU) は 1964 年に設立された比較的新しい大学である。タイで初めての地方国立大学として北部の中心的都市であるチェンマイ市に創設され、現在国際的に高い評価を受けているタイ屈指の総合大学である。キャンパスはチェンマイ市内に主キャンパスを有しており、広大な敷地内には様々な学術および研究施設が配置されていて総合病院も含まれている。キャンパスは美しい自然に囲まれており、学生たちに素晴らしい学びの環境を提供している。

CMU は広範な領域の学部と専攻課程を有しており理学、工学、医学、農学、芸術、人文学、社会科学など様々な分野の研究を行っている。学生数は、2023 年 4 月時点で学部・大学院を含めて約 40,000 名の学生が在籍している。同じく、約 2,200 名の教員が教育職および研究職として在職している。

今回、本学と直接的な部局間交流を開始する予定の保健医療科学部 (Faculty of Associated Medical Sciences) では医療技術学科、放射線技術学科、作業療法学科、理学療法学科の 4 つの学科と 1 つの臨床センター、そして 2024 年 10 月より大学院に言語聴覚療法学コースが新設され、言語聴覚療法士の養成に着手する予定である。研究・教育共に本学のリハビリテーション学部との共通点が多いことから、今後、本学との交流事業において、教育・学術分野での様々な共同活動が期待される。

現在、CMU は世界各国の大学と国際的学術交流を積極的に実施しており、留学生の受け入れや国際的な共同研究プロジェクトが多数進行している。日本国内だけで 10 数校以上の医療系大学と国際交流を実施しており、今回、本学が学部間国際交流協定ではなく、一段ランクが上位の大学間交流協定を結ぶことになったのは CMU の本学に対する期待感の表明であると推察している。

2) 提携交渉の報告と今後の事業展開

東京都立大学・大学院人間健康科学研究科では、12 年前より東京都の「アジア人材育成基金」を基に、アジア各国から看護、理学療法、作業療法、放射線の各専門職で博士課程への留学を希望する学生募集を実施していた。そこにタイの CMU 出身である留学生が 3 名在籍し、博士号の学位を取得後、帰国して CMU はじめタイの各大学で教員となって勤務していた。その関係から今回、本学が CMU へ国際交流提携を提案し、先方の作業療法学科から了承を得ることができた。当初の提携交渉から本学・訪問団の CMU 訪問まで全ての窓口担当となって頂いたのは、Department of Occupational Therapy の Anuchart Kaunnil 講師である。

2023 年 10 月 20 日 (金)、午前 8 時に CMU の学長である Pongsak Angkasith 博士を表敬訪問した。武田学長との会談が 30 分ほど行われ、終始和やかな雰囲気の中で両大学教職員間での挨拶が交わされ、その後の提携交渉に繋がられた。

大阪河崎リハビリテーション大学・CMU 訪問団は、武田雅俊学長、大嶋伸雄学科長、上島健教授、松尾加代准教授、村上達典助教の計 5 名で構成されている。訪問団の CMU における日程と参加者一覧を表-1 に記す。

表-1 CMU 訪問時の日程および CMU の参加者一覧



Tentative Visiting Schedule to welcome executive members.

Osaka Kawasaki Rehabilitation University, Japan

20 October 2023

At the Faculty of Associated Medical Sciences, Chiang Mai University



Date & Time	Proposed Activities
20 October 2023 9.00-10.00	Executive meeting with CMU president *(Providing a van to take OKRU guests and AMS committee to meet the President)
13.00-16.00	Executive meeting with President, Administrative members, and Head of Departments ○ Welcome remark by the Dean of the Faculty of Associated Medical Sciences, Chiang Mai University Professor Dr. Sakorn Pornprasert ○ Faculty Introduction (Assoc. Prof. Dr. Ratchada Cressey) ○ Department introduction ○ Occupational Therapy (Lecturer Anuchart Kaunnil, Ph.D.) ○ Physical Therapy (Lecturer Sauwaluk Dacha, Ph.D.) ○ Speech Therapy (Lecturer Natwipa Wanicharoen, Ph.D.) ○ MOU for collaborations ○ Faculty tour and observation of class activities

List of staffs from AMS, CMU

1. Professor Dr. Sakorn Pornprasert (Dean)
2. Associate Professor Dr. Aatit Paungmali
(Associate Dean for Research and International Relations)
3. Associate Professor Dr. Ratchada Cressey
(Assistant Dean for Research and International Relations)
4. Associate Professor Dr. Samatchai Chamnongkich (Head, Department of Physical Therapy)
5. Assistant Professor Dr. Sarinya Sriphetcharawut (Head, Department of Occupational Therapy)
6. Associate Professor Dr. Supaporn
(Senior lecturer, Department of Speech Therapy)
7. Lecturer Dr. Anuchart Kaunnil
8. Lecturer Dr. Sauwaluk Dacha
9. Lecturer Dr. Natwipa Wanicharoen



写真-1 CMU 学長および首脳メンバーへの表敬訪問



写真-2 CMU 学長と本学・武田学長の会談



写真-3 CMU・Faculty of Associated Medical Science 幹部との実務者会談

その後、昼食を挟んで Faculty of Associated Medical Science の学部長、Dr. Sakorn Pornprasert 氏、理学療法学科長の Samatchai Chamnongkich 氏、作業療法学科長の Sarinya Sripetchcharawut 氏らとの実務者会談を行った。その結果、当初の国際交流協定（MOU : Memorandum of Understanding）では、以下の内容を含む3条項とする事で合意した（以下の内容は、2024年1月のMOU案に基づいた合意内容）。

I. Educational Exchanges and Student Activities:

1. Student mobility, including inbound and outbound study tours;
2. Clinical placements and observation opportunities for Osaka Kawasaki Rehabilitation University and Chiang Mai University students (subject to availability, and to be determined by the host institution);

II. Faculty Exchanges and Professional Activities.

III. Other collaborative opportunities as they arise.

MOUのため詳細については別に記載されるが、主な契約内容は以下の通りである。

1. 両大学の学生（学部生・研究科院生）間の相互交流

ここでは年間5名程度の学生の相互訪問を目安に、講義への参加、医療設備、医療施設への見学を含む参加体験を相互に提供すること、とくに IPE（多職種連携教育）を基盤とした体験型授業への参加が推奨されている。

2. 教職員間の国際交流

教員交換など、両大学間における教員の相互訪問と研究・研修滞在（概ね2週間程度を目安）、そして国際共同研究の推進などが盛り込まれている。当初は本学の教員サイドから共同研究を提案し、CMU教員がそれに応じる形で推進することで合意した。当初の目標としては、本学の教員が国際共同研究として2025年度の科研費申請を行い、研究予算を獲得することを目指す、それ以外でも随時、機会を捉えて研究を推進していくことが推奨されている。

3. その他、必要に応じて追加される。

4. Mahidol University

1) MU の概要

マヒドン大学（Mahidol University、以下 MU）の創立は 1888 年、ラーマ 5 世によって設置されたシリラート病院の設置から始まった。1943 年にタイで初めての医科大学として設立されたタイの国立大学である。

現在は 17 学部、9 つの研究所、6 つのカレッジ、5 つのセンターを有する総合大学へと発展し、キャンパスはバンコクを中心に 6 ヶ所所有している。大学名は「タイの医療の父」とも言われるマヒドン・アデウンヤデート（ラーマ 9 世の父）王子に由来する。

タイムズ・ハイアー・エデュケーションの世界大学ランキング 2017-2018 年によるとタイで 1 位、アジアで 97 位。2015 年の QS World University Rankings によると、医学分野では世界のトップ 100 の大学にランクされている。

今回、本学との提携を検討しているのは MU の理学療法学部（Faculty of Physical Therapy）である。ユニークなポイントとして、理学療法学部の中に Physical Therapy Program（理学療法学専攻）と Occupational Therapy Program（作業療法学専攻）が配置されている。大学院には、Graduate Diploma Program in Clinical Physical Therapy、Master of Sciences Program in Physical Therapy、Master of Sciences Program in Physical Therapy（International）、Doctor of Philosophy Program in Physical Therapy（International）の 4 コースがある。

2) 提携交渉の経過と今後の予定

今回の訪問団は、CMU 訪問時のメンバーと同じく武田雅俊学長、大嶋伸雄学科長、上島健教授、松尾加代准教授、村上達典助教の計 5 名である。2023 年 10 月 18 日、午前 10 時に MU の理学療法学部を訪問し、約 2 時間ほど国際交流協定事前会談を行った後、学部内の施設見学などを行った。最初に挨拶～双方の自己紹介から始まり、終始、和やかな雰囲気の中で両大学の将来展望などが話し合われた。MU の理学療法学部長の Jarugool Tretriluxana 博士（Dean, Assoc. Prof. Ph.D. PTR）、理学療法学専攻長の Pakaratree Chaiyawat 博士（Chief in Physical Therapy, Assistant Professor, PTR）、作業療法学専攻長、そして今回 MU と本学との仲介の労をとって頂いた作業療法学科の Supatida Sorasak 講師をはじめ、計 7 名の教員が会議に参加されていた。会議では最終的に、CMU と同様の内容で MOU を締結する方向で話し合われたが、今回は具体的な期日まで言及されず、年をあらためて 2024 年に再度、協定会議を開催し、最終調整する方向で合意がなされた。



写真-4 MU・理学療法学部エントランス



写真-5 MU・理学療法学部長 Jarugool Tretriluxana 博士らとの記念写真

5. アジアから欧州・英米大学との国際交流についての展望

今回のCMUとの国際交流協定により、本学は本格的な海外連携の時代を迎える。本学の特徴として、大学としての規模は比較的小さいながら、学術研究への意欲と能力については高いレベルを維持出来ているものと自負している。研究面で海外大学との交流が活発化することにより英文学術誌への投稿数も増え、先に述べたとおり教員の研究領域の拡大が期待できる。

一方で、教育面での課題もある。現実的には、国内の他大学との連携も重要であり、先に述べた通り本学は昨年度よりIPE（多職種連携教育）の推進において、慶應義塾大学薬学部、長野大学社会福祉学部、神戸市看護大学、文京学院大学などと合同で「保健・医療・福祉系学生交流IPEセミナー」の運営にあたっている。今回、CMUとの国際交流事業において双方の学部生は、基本的にIPEを基盤とした教育交流を行う予定である。CMUおよび本学もまだIPEのカリキュラム開発において手探りで進めている段階であることから、国内大学に加えて海外の大学とこうした具体的なテーマに沿った交流事業を組めることは単に儀礼的な国際交流とは異なり、非常に実務的で成果が期待できる反面、その規模をどうするか、国内と海外連携との整合性をいかに図るかという課題を抱えている事になる。

教育的効果について、さらに踏み込んで考察すると、今後、本学は否応なしに英語教育の充実に向けて、現在の語学教育体制の改革を考慮せざるを得ない。学部生・大学院生は言うにおよばず、教職員にも英語が必須の状況となるからである。単なる儀礼的な一過性のコミュニケーションとしての英語から、日常的に頻繁に活用されるレベルでの英語が必要となる。CMUなども母国語はタイ語であり、英語はネイティブではないが、その英会話レベルは日本の一般的な大学生レベルとは段違いであり、本学もまた、CMUの英語教育を手本にせざるを得ない。

CMUおよびMUとの国際交流が本学全体の英会話力を底上げし、学生達が海外とのコミュニケーションに自信をもつに至った頃には、次のステップとして英米大学および欧州大学との国際交流を計画し、徐々に進めたいと考えている。

以下の大学は、本学・国際交流委員会の会議で昨年、7月の委員会で作案された国際交流協定締結の可能性が高い大学一覧である。

- (1) University of Illinois at Chicago (シカゴ大学) 米国、シカゴ
<https://ahs.uic.edu>
- (2) University of Philippines (フィリピン大学) フィリピン、マニラ市
<https://up.edu.ph>
- (3) Oxford Brookes University (オックスフォードブルックス大学) 英国、オックスフォード市
<https://www.brookes.ac.uk>
- (4) University of East Anglia (イーストアングリア大学) 英国、ノーリッチ市
<https://www.uea.ac.uk>

今後、こういった手順で進めて行くのか、国際交流委員会でさらに討論される予定である。同時に、教職員は、次世代の本学の海外交流を意識し、様々な機会において主体的に提案されることを強く望む。

参考資料：

- 1) チェンマイ大学 WEB ページ (参照 2014.01.08) <https://www.cmu.ac.th>
- 2) マヒドン大学 WEB ページ (参照 2014.01.08) <https://mahidol.ac.th>
- 3) 多専門職連携教育・教科書シリーズ 第3巻・多専門職連携学習テキスト (編・著：大嶋伸雄，著者：Edger Meyer，石川さと子，小橋孝介，金 蓮連，他) 協同医書出版. 東京. 2017.
- 4) 多専門職連携教育・教科書シリーズ 第1巻・専門職連携概論 (編・著：藤井博之，著者：Scott Reeves，大嶋伸雄，他) 協同医書出版. 東京. 2017.